

令和 6 年度 第1回「地球温暖化対策推進懇談会」 議事要旨

【開催概要】

1 開会日時

令和 6 年7月 29 日(月)14 時～16 時 10 分

2 開催場所・方法

千代田区役所 8 階 第一委員会室 ※WEB 会議 との併用

3 出席委員(15 名)

渡邊委員(会長)、崎田委員、吉田委員(WEB 参加)、小澤委員(副会長)、菅沼委員、大石委員(WEB 参加)、武山委員、松本委員、長嶋委員、磯村委員、小牧委員(WEB 参加)、久保委員、渡邊委員、秋元委員(WEB 参加)、西田委員(WEB 参加)

4 欠席委員(2 名)

三坂委員、菊原委員

5 オブザーバー(3名)

環境省地球環境局地球温暖化対策課

中山脱炭素ライフスタイル推進室長補佐(代理)(WEB 参加)

東京都環境局総務部

浅加都民行動促進担当課長(WEB 参加)

千代田区 川又ゼロカーボン推進技監

6 事務局(7名)

山崎環境政策課長、柳清掃事務所長、今津企画調査係長、山浦事業推進担当係長、安田ゼロカーボン推進担当係長、羽鳥エネルギー対策係長、高島事業企画担当係長

【次第】

1 開 会

2 会長・副会長の選任、各委員自己紹介

3 議 題

- (1) 千代田区の脱炭素に向けた取組みについて
- (2) 区全体の CO₂ 排出量及び区有施設の CO₂ 排出量について
- (3) 「千代田区地球温暖化対策推進計画 2021」の進捗状況について
- (4) 気候変動適応法改正に伴う熱中症特別警戒情報について
- (5) 一般廃棄物処理基本計画の改定について
- (6) 燃料電池ごみ収集車の試験的利用について

4 その他

5 閉 会

【配付資料】

- ① 次第
- ② 委員名簿
- ③ 千代田区地球温暖化対策推進懇談会設置要綱
- ④ 【資料1】千代田区の脱炭素に向けた取組み
- ⑤ 【資料2-1】区全体の CO₂ 排出量について
- ⑥ 【資料2-2】区有施設の CO₂ 排出量について
- ⑦ 【資料3】「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2021」の進捗状況について
- ⑧ 【資料4】熱中症特別警戒情報について
- ⑨ 【資料5】一般廃棄物処理基本計画の改定について
- ⑩ 【資料6】燃料電池ゴミ収集車の試験的利用について
- ⑪ 【参考】次世代型ソーラーセル(ペロブスカイト太陽電池)を用いた建材一体型太陽光発電の実証実験の開始について
- ⑫ 【参考】食品ロスの削減と分別のお願い

【議事要旨】

1 開 会

2 会長・副会長の選任、各委員自己紹介

会長に渡邊委員、副会長に小澤委員を選任

3 議 題

(1)千代田区の脱炭素に向けた取組みについて

◇事務局(山崎環境政策課長)

<資料1に基づき説明>

(2)区全体の CO₂ 排出量及び区有施設の CO₂ 排出量について

◇事務局(今津企画調査係長)

<資料2-1、2-2に基づき説明>

◆渡邊会長

- ・説明内容の確認だが、2021 年度の区全体の CO₂ 排出量については2013年度比で23.6%減少していて、エネルギーの使用量としては、およそ14.3%減っている。よってエネルギー使用削減量を超えて実際の排出量が減っているということが見受けられるが、これは電力の排出係数が減少傾向となっているため、その影響で減っているということかと思う。
- ・業務部門については、延床面積が年々増えているにもかかわらず、実際には原単位という形で評価するとかなり減少傾向となっており、省エネの効果があらわれてきていることが理解される。
- ・家庭部門については、2020～2021 年度は排出量が若干増加しているが、この2年間はコロナの影響により、自宅にいる割合が高かったということを反映している。実際には、世

帯数が増えているにもかかわらず全体としては基準年度よりも減っている傾向という理解になる。

◆西田委員

・これだけに関することではないが、区民や区の事業所が努力された成果なのかそうではないのかというところが分かるよう、もう少し分析いただきたいと思った。本当の千代田区の原因単位というのはなかなか分からないと思うが、企業の皆さんがPPAで再エネを買ったり、個人の方でも再エネを使っていたりする。PPAがどのくらい、区の企業の中で使っている方がいるのか、原因単位に対して区民や事業者が働きかけている（努力している）ということが分かる資料が何かないかぜひ探してみただけないかなと思う。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・千代田区だけの生データのようなものがあると非常にいいというのは確かだが、なかなか実際にそういうデータを出そうと思うと、千代田区だけで独自の調査をかけて、一度やればいいというものではない。これを毎年毎年やっていくことができるかどうかというところで、なかなか難しいというのが現状。今後スマートメーター等も改良されていくというところもあるので、そういったところを期待しようかなというところである。

・実際にCO₂の排出係数が相対的な再エネの割合に影響されてくるというところもあるが、実際のエネルギー消費量については2020年と2021年で少し下がっている。一方、CO₂の排出係数については少し上がっているというところで、排出量が少し上がっている。なので、西田委員のおっしゃるとおり、区独自のデータのようなものを簡単に出せたりすると非常にいいかなとは思いますが、確かに課題である。

◆西田委員

・統計的なものでなくていいので、ぜひそういう努力が分かるようなものというのを、私も少し検討したいと思うので、追求されるといいかなと思う。

◆崎田委員

・エネルギー消費量について、2019年に比べて2020年、2021年と下がっている。これはコロナの時期でオフィスが閉まる、あるいは働き方を変えて在宅勤務するなど、働き方が変わっているためだと思う。これが今後2022、2023となるにつれてまた戻ってしまうのか、もしくは皆さんが働き方を変えながらエネルギー消費量を下げていくのかというのも大事なところかと思う。

・このコロナの動きをポジティブに捉えながら、単なる機器の省エネ効果が高いというだけでなく、オフィスの皆さんが働き方を工夫して、企業としての行動変容の定着に向けた動きがあればそのようなところから発信していければいいと思った。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・今後、2022年度以降の数値が出てくれば、コロナの影響も当然あると思う。また、再開発等もこの間進んでいるので、その建物の高効率化というのも数値として出てくるのではな

いかと思う。

・CO₂の排出係数についても、2021年以降下がっていったところもあるので、その影響も含めて議論の対象になると思っている。

◆武山委員

・企業だとスコープ1～3のように、自分たちが直接出しているものと、その周りのサプライチェーン全体の中で出すものと分けると思うが、区の場合、この目標に対して自分たちの区として頑張る範囲がどこまで、周りにいる事業者、千代田区に在籍している様々な機関に対してどのぐらい働きかけているのか。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・目標としては、先ほど推進計画でもあったとおり、千代田区全体、事業者も家庭も全て、そこから出るCO₂排出量を、実質、基準年度に比べてゼロにすること。算出としては、千代田区だけの数字というよりは、東京都全体で電気やガス、ガソリン等々、それぞれのエネルギーの使用量を集計し、各事業所からの集計の数値等を出してから表している。
・各企業さんにとってはスコープ1～3の範囲があるが、千代田区の場合は、基本的に千代田区内の排出量となっている。一方、千代田区には大企業があり、地方や海外とのつながりが当然にあるため、そういったところも含めて働きかけて行動変容を促していく。基本的に大企業等は率先して動いているところもあるので、基礎的自治体としては、中小企業の事業所や区民の方を含めて、家庭のほうに対して重点的にやっていくのだろうというところ。

◆武山委員

・事業体の方にもこれを規制のような形か何かしらの形で、協力していただくようなことを今後考えているということか。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・おっしゃるとおりだが、基本的には、区独自で規制というのは難しいところがあり、これまでも国や東京都からいろいろな規制だったりを含めて対応というのはあると思うが、区としては行動変容等、そういった環境に配慮した事業展開をしてもらうように働きかけていく。

◆渡邊会長

・算出方法としては、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」のデータを使って、千代田区の比例配分をしているという理解でよろしいか。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・そのとおり

(3)「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021」の進捗状況について

◇事務局(羽鳥エネルギー対策係長・山浦事業推進担当係長・今津企画調査係長)

<資料3に基づき説明>

◆渡邊会長

・温暖化配慮行動計画書制度の表彰選定部会委員について、会長指名ということでこの懇談会でご了解を得る形でその部会にご出席いただいている。今年は崎田委員、武山委員、小牧委員、秋元委員の4名の方々にお願いしたいが、よろしいか。

(拍手)

◆崎田委員

・この計画に対しての取組みに関して熱心に行っていると感じたが、できるだけ早く温暖化対策をしていかなければいけないという時代の中で、再生可能エネルギーそのものをできるだけ地域で増やすというところが少し少ないというのが気になった。
・電力切替促進はあるが、もっと自分たちの家などでつくっていくという視点が都会の中でもあっていいのではないかと考えている。マンションやビル、特に中小企業の事業者さんのビル等でうまく工夫できないのかと思った。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・太陽光パネルについての補助については千代田区でやっているが、都心では屋根の部分が非常にスペースとして限られている。どうしても太陽光、次世代の再エネ創出ということになると太陽光というところが今のところメインになってくるが、そういったところで限られていることから、地方と連携し、地方の地産地消、それから余った部分は都心に持ってくるという仕組み「e. CYCLE」をつくった。
・オンサイトで実施していくということも今後考えていかなければいけないところで、再生可能エネルギーに向けた次世代太陽電池の置き方、実証実験、これを今、秋葉原の駅前広場でやっている。これは窓の内側に設置をして、各窓が発電することが可能。今までは新築や外壁、窓でも外側の窓に設置をしていた。そうすると新築しか設置できなかったり、経年変化や寿命がある等という問題も外壁等にはある。今回は内側のため交換も可能。加えて断熱効果も期待できるということで、今、実証実験をやっており、うまく実用化になれば区有施設でも活用を検討していく。ほかにもペロブスカイトでいろいろ実証実験をやっているの、そういったところが実用化していけば都心でも発電ができ、そこに何かしら推進していけるような事業展開というのは考えられるのではないかと考える。

◆崎田委員

・太陽光あるいは新しい壁面の話もあったが、私、千代田区の廃棄物の審議会にも関わらせていただいているが、商品廃棄物について資源化し、それをエネルギー活用する等いろいろなことが進みつつあるので、それをどこかの大きな工場に託してしまうだけでなく、地域で1つ1つの大規模ビルだったらできるのではないかと等、いろいろな可能性はあると思うので総力戦で考えていくというのは大事なと思う。

◆秋元委員

・省エネ診断について、LED照明に対象経費の50%、上記以外が20%と今現在になっているが、ビルや事務所はすでにLED照明に替えているのではないかと考える。そこに50%という

高い補助金を出すメリットは何か。

・ビルの中で一番電力を使う空調に対して、窓断熱対策をしていくということが効果的だと思うが、そういったところに厚く補助金を出したり、LED照明の補助額を減らして空調断熱対策のほうに補助金を回していくとか、そういうような将来的な計画はあるのか。

◇事務局(羽鳥エネルギー対策係長)

・既存の白熱灯や蛍光灯からLED照明に変更した場合にCO₂の削減量が大きいというところで、まず先にLED照明に力を入れるということで進めている。断熱や空調については、総合的に考えると効果は出るが、LED照明のように劇的に変わるというところがまだない。LED照明について、まだ小さな事務所ビルは蛍光灯からの切り替えが終わっていない状態なので、これが進んだのちにそのほかのところに重点を移していくという考えである。

◆渡邊会長

・LED照明の補助というのは、電球部分とか蛍光灯部分を取り替えるということでこの補助が得られるということではなく、設備自体を取り替える工事料という意味での補助と理解してよいか。

◇事務局(羽鳥エネルギー対策係長)

・そのとおり。電球の交換等になると東京都のクール・ネット東京で実施の補助やポイント制度がある。

◆久保委員

・弊社はそういった改修にも携わっているが、あくまで印象としてLED照明については進んでいるのが実情。今お話があったように電力使用量が一番大きいのが空調で、LEDも確かにそうだが、それ以上にビルのオーナーさんにとっては非常に大きな負担となっているのが実情なので、そのところに一助いただくことをご検討いただけるのであればぜひ進めていただきたい。

◆吉田委員

・グリーンストック作戦について、実際に181件の助成、省エネルギー診断76件とあるが、これが当初予定していた額や件数に対してどのくらいかというところを教えてください。
・「e. CYCLE CHIYODA」に関して、当初想定されていた規模のまだ300分の1ぐらいの契約しかないようだが、今後契約を増やしていくためにどのようなことを考えているのか教えてください。

◇事務局(羽鳥エネルギー対策係長)

・グリーンストック作戦について、予算額のおよそ8割の執行額になっている。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・「e. CYCLE CHIYODA」については、再生可能エネルギーの供給メニューとして、再エネ

電力・非化石証書、両方をセットにしたものと、非化石証書だけを購入できるという2つのメニューがある。ただ、ビル自体が大手の電力会社さんと契約していて、それから切り替えるというのはハードルが高いというところもあり、大手の電力会社さんのメニューの一部に入れてもらうことも含めて、今後、幅広く、千代田区の事業者の方たちが使えるようなメニューづくりを現在検討している。

(4)気候変動適応法改正に伴う熱中症特別警戒情報について

◇事務局(今津企画調査係長)

<資料4に基づき説明>

◆崎田委員

・熱中症対策はこれまで平均的に1年間に全国で1,000人ぐらいの方が亡くなるという想定以上の状況になっているので、クーリングシェルター、しっかり情報提供していただくのは大事だと思う。この暑さでまちを歩いていると区内に7つでは少ないという印象だが、もう少し歩いているときにすぐ目につくようなところで、民間施設に協力いただく等、広げていくことはできないのか。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・後ほどマップを見ていただければと思うが、ドラッグストア等民間も含めてひと涼みスポットの中で協力いただいている。また、これに限らず、コンビニや本屋等も含めて、いろいろなところで冷房が効いているところがあるので、そういったところを活用いただければと思う。
・特に熱中症については、予防をしっかりすればかからない病気とも言われているので、そういった意味では保健所でも、どのように熱中症を予防していけばいいか、啓発業務もしっかり行っているところである。

◆崎田委員

・歩いている方や区民の方がここにあるというのがすぐ分かるような、マークの旗が何かあるのか。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・了解を得て、やっていただけたところはのぼり等を置かせていただいている。

◆秋元委員

・高齢者の方々、諸事情でエアコンを使えないというような方に、外に出てクーリングシェルターに行くようにと言っても、なかなか難しいのではないかなと思う。例えば高齢者の世帯や低所得者層の方々にエアコンをサブスクで入れてあげるとか、冷房代を補助するとか、何かこういった暑い日に熱中症にならないような手当ができるといいと思った。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・保健福祉部の中で、高齢者に対して、熱中症見守り活動というところで、看護師さんを含め

て、高齢者の見守りをやっていたりする。環境政策のところでは今おっしゃっていただいたような直接のエアコンのサブスクとかそういったことはやっていないが、他部署でその部分についていろいろと取組みを進めている。

(5)一般廃棄物処理基本計画の改定について

◇事務局(柳清掃事務所長)

<資料5に基づき説明>

◆崎田委員

- ・ごみの排出量データを見ると、千代田区は事業系が9割で家庭系が1割。分別を経て、排出抑制からリデュース、リユース、リサイクル、そして再生資源に活用という大きなサーキュレーションの流れがあるが、事業者の皆さんの状況も考えながら、全体を少し考えていこうということで、今、検討している。
- ・メンバーを見ていただくと、今回、食品ロス削減にいわゆる市民として取り組んでいる方や事業者として取り組んでいる方、コンサルをやられている方等、現場を分かる方が大勢入っているので、審議会の仕組みづくりではあるが、効果がしっかりと出るような、千代田区らしい仕組みが提案できたらということで、意欲的に話し合いを進めている。
- ・またまとまった段階で皆さんのご意見を頂きながら、地域の皆さんに活用していただける、そしてきれいなまちづくりにつながるような形になればと思っている。

◆松本委員

- ・食品ロスに関して、東京オリンピックのボランティアをしていた際、お弁当の大量廃棄が発生していた。保育園や小学校の保護者に連絡をすれば、取りに来たいという方は必ずいたと思う。同じような大きなイベントは千代田区内で今後あると思うが、イベントが中止になったり、トラブルで参加の方が減ってしまったりというときに、お弁当等を廃棄するのではなく、必要な方に配るようなことはできないのか。例えば子ども食堂と連携して配布する等、そのような取組みがあればお伺いしたい。

◇事務局(柳清掃事務所長)

- ・大量廃棄はかなり処理が大変だが、お店におけるフードシェリング等は今後検討したいと思う。また、賞味期限はあるが捨てざるを得ないものについてはフードドライブということで回収し、必要なご家庭等に届けるような仕組みをつくっていきたいと思う。すでにフードドライブについては区内12か所で実施しているので、ぜひご活用いただきたい。

◆崎田委員

- ・東京2020の組織委員会の外部専門家会議で資源循環の計画づくりの責任者をしていた際、計画10項目ほどのうち食品ロスだけ計画がうまくいかなかった。大量廃棄が二度とないよう、仕組みの改善やルールの見直し等行い、今後の大規模イベントはよりよくなるのだと思う。

(6)燃料電池ごみ収集車の試験的利用について

◇事務局(柳清掃事務所長)

＜資料 6 に基づき説明＞

◆崎田委員

・港区の水素ステーションを使っているようだが、ぜひ区内にも造っていただきたい。また造るときには、大型車が入れるようなものについてもぜひ検討いただければと思う。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・以前、三番町にトレーラーが入れる水素ステーションがあった。しかし、なかなか利用されなかったり、その土地の関係者との調整により、今はないという現状。水素ステーションという形なのか、簡易的なものなのか、ニーズとの関係があると思うが、チャンスがあればと思う。

4 その他

◇事務局(山崎環境政策課長・柳清掃事務所長)

＜参考資料に基づき説明＞

◆武山委員

・次回に向けてのリクエストだが、この温暖化対策で使われている予算の内訳について拝見したい。説明のあったペロブスカイトについて、私もすごく期待していて素晴らしい取り組みだと思う一方、そこにどのぐらいの予算をかけているのか、もしその予算があるのなら別の取り組みをやったほうがいいのか等、他の最善策を考える余地も出てくるかと思うので、ぜひそういったところも拝見したいと思う。

◇事務局(山崎環境政策課長)

・どこにどれぐらいの予算がというのは、今年度予算の概要はすでに公表しているので、のちほど区ホームページの場所をお知らせする。次回、来年度の話をする際には予算がおおよそどれぐらいの内訳なのかというところを示せればと思う。

5 閉 会

◇事務局(山崎環境政策課長)

・次回の懇談会は1月頃の開催を予定。具体的な日程等については、改めて調整する。